



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

海上技術安全研究所 国際会議報告



会 議： 第 60 回海洋環境保護の科学的側面に関する専門家会合/船舶で輸送される有害物質の危険性評価にかかる作業部会（GESAMP/EHS Working Group）（EHS 60）

開催場所： 国際海事機関（IMO：英国ロンドン）

会議期間： 2023 年 5 月 9 日～5 月 12 日

参加者：オランダ、アメリカ、フランス、中国、カナダ、ドイツ、日本から総計7名のエキスパートの他、オブザーバーとして化学物質の安全/環境汚染危険性の査定に係る作業部会（ESPH）議長、事務局2名

海技研からの出席者：

益田 晶子 環境・動力系長/国際連携センター副センター長

概要：GESAMP EHS WG は、

- 新規査定物質および再査定物質について、毒性評価値および EHS 名称を決定した。
- 化合物査定分類に関する課題の検討をおこなった。
- 既存データファイルの見直しをおこなった。

主な貢献

GESAMP WG 1（EHS WG）では船舶で輸送される有害物質の危険性について評価を行っている。WG 1には三つのサブグループがあり、益田は Human health hazards および Physical chemistry hazards のサブグループの議論および全体会合に参加し、審議に貢献した。

主な審議結果

1 物質査定

提出された新規 7 物質および再査定 6 物質について毒性評価値の割り当て、各物質の EHS 名称を決定した。

2 化合物査定分類に関する課題

2-1. 急性経皮毒性評価（C2）

急性経皮毒性テストデータが欠落している場合、急性経口毒性テストデータから外挿する手法をとっていたが、皮膚や眼の刺激性・腐食性データが反映されていないことや、エンドポイントが経口と経皮で異なることに懸念が示された。一方、急性経皮毒性データがない場合、ESPH テクニカルグループによる運送要件評価を可能にするため、可能な限り物質にケースバイケースで推定 C2 評価を割り当て、C2 評価の根拠となる関連情報を報告書に記載することに合意した。

2-2. バイオ燃料製造原料としての植物油について

植物油製品に関し、類似の植物油製品群を対象とした一般的な取り扱いが適切かについては、当該製品の申請が増加するか、他の機関から要請があるまで検討を進めないことに合意した。



3 既存データファイルの見直し

蒸気の吸引毒性が低い物質の取り扱いについて検討した。これまで、蒸気として吸引毒性が低い物質については、GESAMP コンポジットリストにハッシュマーク（#）を付していた。現在、急性吸入毒性については、C3a（蒸気／ミストのみ暴露）と C3b（蒸気のみ暴露）に細分化して評価していることを受け、#マークのついている 24 物質を再検討し、5 物質について C3b に評価値を与え、残りの物質はNI（評価なし）とした。

4 次回会合

暫定的であるが、2024年5月13日から17日にオンラインで開催される予定である。



GESAMP EHS WG メンバー、ESPH 議長および事務局メンバー（報告者：右から 4 番目）

以上